

## 「北海道キャノン CT ユーザー会」開催報告

キャノンメディカルシステムズ株式会社 北海道支社

いまだコロナ禍は終息しない状況下ですが社会生活は従来の様相を取り戻しつつある中、2019年の札幌でのユーザー会以来、4年振りとなる集合でのユーザー会を2024年2月3日土曜日に札幌で開催いたしました。

当日は午前中までの悪天候の中、29施設51名の参加を頂き、各演者の先生方の講演に対して質問も複数頂き、集合でのユーザー会の良さを感じられる盛況な会となりました。



会場の様子

冒頭、北海道 CT 遠友会 代表世話人の北海道大学病院 笹木様から開会のご挨拶を頂いた後、弊社 CT 営業部 津島より、最新情報提供として、フォトンカウンティング CT の開発状況をご紹介しました。



代表世話人 笹木様



座長 平野様



CT 営業部 津島

続いて画論参加報告として、小樽掖済会病院 大家先生より「高精細 CT が術式の決定に寄与した横行結腸癌の 1 例」との演題で Aulion Precision を用いた大腸がん術前評価について、解剖の知識や術中の画像を含め、詳細にご講演を頂きました。



座長 山口様



大家先生

その後、弊社 CT アプリケーション担当 小山より、アプリアワーとして「心電同期撮影の時間分解能」とのタイトルで、心臓 CT 撮影で必要となる心電図の基礎的知識や心電同期再構成の原理について、復習的な説明を行いました。

その後、ユーザー発表として、栗山赤十字病院 八巻先生、札幌医科大学附属病院 大橋先生、北海道大学病院 坂本先生の 3 名の先生方に講演を頂きました。

八巻先生からは「80 列ヘリカルで冠動脈を撮る～標準化への路～」との演題で当社の 64 列・80 列 MSCT を用いた心臓 CT 検査で、静止位相を得るためのテクニックを詳細に解説いただきました。

大橋先生からは「低侵襲手術時代の新たな手法 – Double Bolus Tracking の真髄 –」との演題で、腹部ロボット手術での術前精査目的で動脈と静脈各々で最適なタイミングで撮影するため、ご自身で工夫された撮影方法を解説いただきました。

坂本先生からは「Aquilion ONE / INSIGHT Edition の初期使用経験」との演題で、昨年の RSNA で世界デビューを果たした、キヤノンの最新 320 列面検出器 CT について、北海道大学病院に導入いただいた道内 1 号機の使用経験を踏まえ新機能や臨床画像をご紹介いただきました。



座長 船山様



八巻先生



大橋先生



坂本先生

久しぶりの集合形式でのユーザー会は活気が有り、改めて集合で実施する良さを感じた一方、エリアが広大な北海道という地域特性や、新型コロナの流行が散発的に継続する現状ではウェビナーのメリットもあるため、北海道CT遠友ser会の世話人の先生方とより良い開催形式を検討のうえ、次回以降に繋げたいと思います。

また今回、講演内容を編集した動画をオンデマンドで3月末まで配信しております。登録を頂く事で視聴用リンクをお送りしますので、詳細はメルマガ本文をご参照ください。